

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あさひ)

事業所番号	0690700117		
法人名	十和建設株式会社		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	山形県鶴岡市八色木字西野335-5		
自己評価作成日	平成27年 11月20日	開設年月日	平成24年 3月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づきゆったりとした雰囲気の中で、入居者の方が一人ひとり自分らしい生活ができるように掃除や食事作り、地域行事への参加等役割を持っていただけるよう支援しています。また、畑を新たに作り、花を眺め、野菜の収穫を行い、今年からはウッドデッキが完成し、外気浴やレクリエーション、シンボルツリーのイルミネーションを楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、家族を支援される一方の立場に置かず、利用者と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を大切にし、家族会の発足や、家族の協力を求め外泊への支援等努力している。同業者との交流を通じた向上も大切にし、藤島地区の4事業所によるオレンジカフェでは、地域の方が大勢集まり、認知症高齢者の地域での理解や支援に多くの理解を得、連携の成果となっている。今年作られたユニット間をつなぐウッドデッキは広く、機能訓練やレクリエーション、外気浴等様々な機能として使用でき、今後のサービスの向上に期待される。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成27年 12月 11日	評価結果決定日	平成27年 12月 28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設としての理念、ケアの理念を事務室や廊下に提示している。また、隣接している施設との連携を図り、統一していく予定。	法人の理念を基に職員で話し合った理念を作り、見やすい場所に掲示し共有を図っている。隣接のグループホームと連携し、法人の理念を振り返りながら、職員間で話し合い見直す予定である。業務改善を図り、利用者に向き合いかわる時間を多くとるよう工夫が行われている。職員は普段のケアの中で話を聞き思いをくみ取り、小さな変化も見逃さないよう普段から努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加、地域行事への参加をしている。オレンジカフェでは地域の方の参加が見られた。	町内会に加入するとともに、地域の行事や作業に加わっている。子供会の訪問や、地域の歌や踊りのボランティア等の訪問も多い。藤島地区のグループホーム4事業所が中心となってオレンジカフェを開催し、多くの地域住民の参加を得て交流の拡大に努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や藤島ケアネットワーク会議などを通し、事業所で行っている活動などを報告している。また、認知症サポーター育成講座に参加している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所、入居者の状況、サービスについて報告し、お互いに意見や情報の交換を行っている。防災訓練や地域の行事などの情報発信の場となっている。	市職員、民生児童委員、介護相談員、家族会、町内会代表等で2か月に1回開催されている。事業所の状況や行事、研修の成果等が報告され、委員からは権利擁護等の専門的な意見等が交わされ、双方向的な会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に二度介護相談員に訪問、昼食もとっていただき、意見やアドバイスを頂いている。運営推進会議では庁舎、相談員の参加もあり、情報交換できている。	運営推進会議や介護相談員等で、事業所の取組等理解を頂いている。市主催の介護事業所連絡会の部会等情報の交換も行われている。利用者にかかる問題等は、連絡を取り合い意見やアドバイスを頂きながら、問題解決に向け協力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>入居当初にご家族に説明し、帰宅願望や、ベッド転落等、危険のある方はそれぞれ、その都度個人に合った対応をしている。マニュアルを作成し、職員間で共有している。</p>	<p>マニュアルや勉強会を通して、職員に周知を図っている。職員も禁止の対象となる具体的な行為やその弊害を理解している。ヒヤリハット等の事例を検討することで、安全を確保し様々な工夫を行っている。職員は利用者の危険に繋がる行為には、否定することなく、寄り添い見守ることを大切にし、不適切な対応や鍵をかけない工夫を行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修への参加、職員会議の際に話し合い、防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用しようとしている入居者様がいるため、今後勉強会を実施する予定。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、十分に説明を行うように努めている。その後も、不安や疑問があれば受け付けている。改定が必要な場合は同意書を頂いている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>要望などは全職員へ伝わるよう申し送りや会議等で伝え、サービスの提供に反映させている。意見箱を玄関に設置している。また、何かあれば運営推進会議で報告する予定。</p>	<p>今年度家族会を発足し、家族から広く意見を求められるよう工夫している。職員はお便りの送付や面会時に利用者の状況報告を行い、信頼関係を築きながら、意見を表しやすくなるよう努力している。月2回介護相談員の来所があり、利用者が外部者へ意見を表す機会となっている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議や普段の業務の中で話し合いを設けている。また、代表者との月一回の会議にて報告等を行っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を奨励し、資格手当を設け、給与に反映し環境整備に努めている。また、給与水準の見直しなどを行っている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに合った研修の機会を確保している。また復命報告にて、職員全員で情報等を共有しサービスの向上に努めている。職員から要望や必要に応じて勉強会を行っている。	県、市等で主催される外部研修には職員の職責や希望を基に派遣している。報告書を提出させ、職員間の共有に役立てている。毎月事業所内で、言葉使いや接遇等、実情に応じた勉強会を開催しサービスの向上に役立てている。法人も資格取得の支援を行い、学ぶ機会を大切にしている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	鶴岡市介護事業所連絡会・県GH協会庄内ブロック等の研修や交流会、藤島ケアネットワーク会議等に積極的に参加している。	グループホーム連絡協議会の研修や交流会、交換研修、藤島地区の4事業所によるオレンジカフェ、鶴岡市による介護事業所部会等に参加することでネットワークを築き、交流や情報交換を通して得た内容をサービスの向上に活かしている。	

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聞き、不安などを取り除くように努めている。また日々の様子を観察、職員間で共有、改善している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来荘した場合は、近状報告などを伝えご家族や本人の要望を取り入れるようにしている。また、なかなか連絡の取れないご家族にはお便りの発行で様子をお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、本人、管理者、専門員で話し合い、その方に合った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その日の気分や体調によってできない日もあるが、職員と一緒に制作物を作ったりしながら本人ができることを見出している。また、出勤職員の顔を見ると、覚えていてくれたりと、だんだんと馴染みになってきている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来荘時には近状を報告し、受診の際には情報提供書を作成し、情報共有し連絡を密にしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との会話の中で馴染みの人や場所を忘れず思い出してもらおうようにしている。また、知人等の方に面会に来ていただいている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに良好的な関係が築けるように個々に合わせた、活動する機会を設けている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談などがあれば支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を尊重したうえでご家族の意見も参考にしている。	計画作成担当者を中心に、一部センター方式アセスメントシートを活用し詳細なアセスメントを行っている。職員は日々の係わりの中で、利用者により添い話を聴き、思いを大切にしながら、表情や仕草を注意深く捉え、利用者の意向の把握に努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録やフェイスシートを参考に心身の状態を把握し、また本人や家族からの聞き取りをし、支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報を記録にまとめ、本人の現状を把握しその都度対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の際に本人、ご家族の要望を参考にし、意見を出し合い見直しを行っている。介護計画に関する記録などは個々に一冊にまとめ、わかりやすくしている。	3か月ごとモニタリング、計画の評価が行われ計画の見直しが行われている。担当者会議やカンファレンスを通して、家族や職員の意見を踏まえ、本人がより良く暮らせるよう、現状に即した計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段からミーティングなどで日常の気づきを報告し合い、ケース記録に記入し職員同士で共有している。また、ケアに活かせるよう職員会議等で検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月介護相談員の受け入れを行っており、隔月に運営推進会議を行っている。子供みこしに立ち寄っていただいたり、数名での地域行事への参加をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時の情報提供書の作成により、通院時、往診時の結果などが共有できている。	かかりつけ医は本人・家族の希望を踏まえ、従前の医療機関を大切にし、連携を図っている。原則通院は家族にお願いしているが、状況に応じ事業所でも支援している。事業所内での状況を記した情報提供書を介して、利用者の身体状況等の情報が、医療機関、家族、事業所で共有され、適切な医療が受けられるよう工夫している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師を第一相談先として医療的な支持を仰いでいる。また、日誌を活用し職員が情報把握をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時、往診時または相談を要するときは、主治医や協力医療機関、看護師と相談し、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りをしない方針を説明し、了承いただいている。また、重度化した場合には家族、主治医と相談、連携を行い支援している。	看取りは行わない旨早い段階から説明が行われている。重度化など利用者の心身状況の変化に応じて、家族、主治医、職員と改めて話し合いを行い、対応の方針を確認し、共有が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、緊急時には看護師の指示を仰ぐようになっている。また、定期的に心肺蘇生法の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内では入居者も含めて避難訓練を行っている。毎年二回は隣接している施設と合同で消防署、町内会などの協力を得て避難訓練を行っている。今後は地域との災害対策と関係し、進めていく予定。	併設事業所との合同による避難訓練では、消防署、町内会等協力を得て訓練が行われている。事業所では毎月、避難に関する勉強会や確認作業が行われ、有事に備えている。地域との協力関係も、運営推進会議等を通して、さらなる強化を目指し話し合いを進めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活を大切に、人格の尊重に努めている。職員は不適切な言葉かけや対応にならないように注意し、会議などで話す機会を設けている。	事業所内の勉強会で言葉使いや接遇に関して普段のケアを振り返りながら学んでいる。職員は年長者を敬う気持ちを忘れず、言葉使いや不適切な対応の無いよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような声かけや、希望を聞く機会を日々の支援の中に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や情報を職員間で共有し、個々の意向を尊重できるように心掛けている。また、日々活動の中で無理強いすることなく、本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、ご家族の希望に合わせ、出張サービスなどを利用している。また、気候に合わせてながらも、なるべく服装も本人の意向に合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季を感じてもらえるよう、旬の食材を使用して献立作りにも努めている。普段より個々の好みを聞き、取り入れている。また、職員と一緒に調理や片づけを行っている。	季節感や利用者の希望を大切にしながら、3食事業所内で調理している。利用者にも調理の過程に加わって頂き、家庭的な食事になるよう努力している。行事食を取り入れながら食事のアクセントを付け、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況などを把握し、個々に合った食事量、形態で提供している。体重の増減がみられた場合は看護師と連携、家族と相談し調節している。水分摂取も適時での提供や手作りゼリーで確保、進め方などを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいや歯磨きを促し口腔ケアを実施している。自力でできるように声掛けや、見守りをするなど支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失敗を少なくするために排泄チェック表を活用し、個々の状況パターンを把握し、時間や様子を見て声掛けや支援をしている。	排泄チェック表を活用しながら適時の声掛けにより排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間もなるべくトイレで排泄が出来るよう支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけでなく、献立にヨーグルトや牛乳、食物繊維の多いものなどを取り入れ工夫している。また、朝夕の歩行運動や立ち上がり運動を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	身体機能に合わせて入浴支援している。自宅同様、曜日を決めず夕方に入浴してもらうように支援している為、毎日希望通りとは難しいが、なるべく意向を尊重している。	2日に1回程度入浴できるよう、利用者の体調や希望に応じながら支援している。変わり湯等を交えながら入浴が楽しみになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣をご家族や本人に聞き取りし、日中の適度な活動を取り入れ夜間ゆっくり休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で内服前後のダブルチェックを行い飲み忘れや誤薬のないようにしている。また、内服時は個々に合わせて内服方法を実施しており、飲み込みまで確認し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、それを生かせる活動をしていただいている。希望を生かし日々の生活の中に習慣的に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事や、協議会の行事に参加している。他にもイベントとして外出支援している。ご家族とは外出や週一回の外泊など、以前よりも機会が増えている。また嗜好に合わせ、図書館や買い物、外出の支援もしている。	地域行事や季節ごとのドライブ等外出の支援をしている。図書館や買い物等個別の外出支援も行われている。散歩や今年作られたユニット間のウッドデッキは広く、お茶会等ゆっくりと外気に触れることも大切にしている。家族等の協力も得て、外泊の機会の支援にも努力している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に合わせて、金銭管理している。個人で管理できる方は、ご家族の協力を得て支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人や家族からの希望があったときには電話の取次ぎ支援を行っている。近状報告や季節を感じていただく為にも、手紙や年賀状を書いて頂く行事を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごしていただく為にも、一日数回の清掃を行い生活を保持している。壁の装飾や生け花で季節感のある空間づくりをしている。	温度や湿度が管理され、清掃も行き届き清潔感がある。広い中庭のウッドデッキは両ユニット間で機能訓練や行事等に利用でき、外気に触れながら居心地よく過ごせる空間となっている。居間もソファや食卓が配置され思い思いに過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、ここに自由に座れるようにしている。また、居室や洗面所前のイス、玄関先や他ユニットへ行くなど思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用していた家具や日用品等馴染みの物を持ち込んでいただいたり、飾って頂いている。また、配置などもご本人やご家族と相談し、安全で居心地の良い空間になるよう工夫している。また、季節感などを感じていただく為に、手作りカレンダーを作成し飾っている。	利用者の好みに応じて、使い慣れたものや、思い出の写真が飾られ、家具等の配置もそれぞれの好みに応じ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手すり設置や段差のないつくりになっており、安全な環境にしている。また入居者の背丈や目線に合わせ、居室やトイレ等わかりやすく表示し自ら居室に行ける等自立した生活がおくれるように工夫している。		